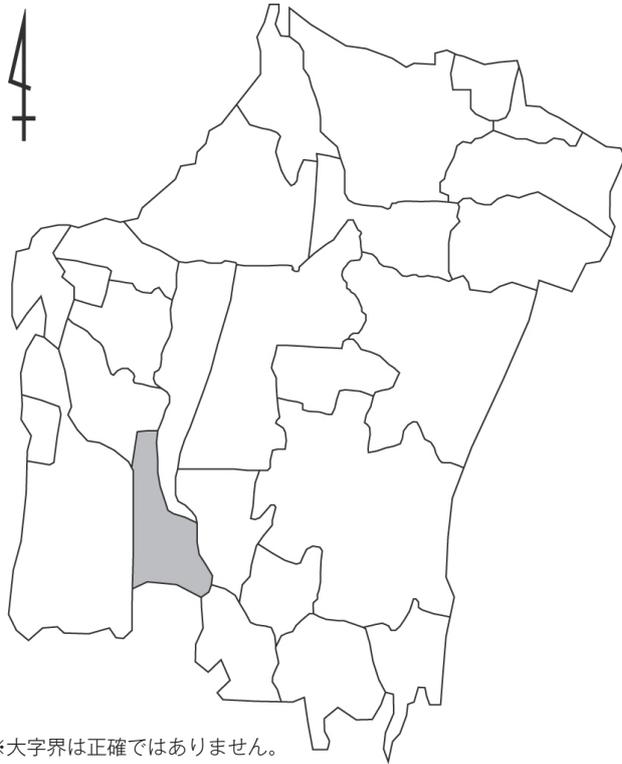


郷土かみのかわの歴史・文化財

上三川の地域と歴史 梁やな

梁は、町域の南部中央、田川右岸の台地上に位置しています。北側は川中子と大山、西側は多功、東側は下蒲生と五分一とその境を接しています。田川は地区の東側を南流しています。

近世の初めは宇都宮藩領で、その後壬生藩領、幕府領を経て幕末には旗本領となりました。



※大字界は正確ではありません。

女性59人です。貞享3(1686)年の家数は50戸、天保年間(1830～1844)の家数は30戸で、石橋宿の助郷役を課されていました。さて、「梁」という地名はいつどこから来ているのでしょうか。人名なのか場所なのか。答えはその両方です。ひとつは、かつて田川の西岸に魚を捕るヤナがあったことに由来する説です。

もうひとつは、今から約500年前の天文年間(1532～1555)に遡ります。当時、多功城を治めていた多功満朝の弟・朝光がこの地に館を築きました。そして屋号を「築」と称し、築五郎朝光と名乗りました。その館は築城と称され、延命院の北側にあったといわれています。ここから「梁」と呼ばれるようになったという説もあります。

前述の延命院は、築五郎朝光が延命地藏尊を安置するために建立したと伝えられています。相次ぐ火災により延命地藏尊は焼失しており、現在は大日如来が本尊となっています。また、町の七福神巡り



星宮神社境内

の一寺として布袋尊が奉られています。

国道352号線の梁交差点北西には、村の鎮守・星宮神社が鎮座しています。本社の創建は定かではありませんが、天文年間以前ではないかといわれます。明治期に上梁と下梁の神社を合祀して現在地に遷宮されました。

かつて神社の境内には「梁の五木三水」の伝承に出てくる八重一重の桜と呼ばれる名木がありました。他の4本とともに既に残っていませんが、大変にきれいな桜であったそうです。ちなみに「三水」は行人淵、佐藤淵、河童淵を指しますが、そのお話しはまたいずれ。

夕日が寒空に映えるこの時期。往時の梁に思いを馳せつつ、田川のほとりを散歩するのも一興ですね。